

[年表…伊勢神宮御遷宮材と木曾山]

永享4年(1432)9月	幕府は美濃守護土岐持益に命じて、妻籠兵庫助に七間御厨材木を出させる。御厨…神饌を調進する屋舎
天正10年(1582)6月	この頃、伊勢神宮の御遷宮材が、織田信長の命によって三留野川向の伊勢山から切り出される。
天正18年(1590)7月	木曾は豊臣秀吉の直轄領になる。聚楽第、伏見城、大坂城、方向寺などの建築用材を切り出す。
慶長5年(1600)9月	関ヶ原の戦いの結果、木曾は徳川家康の直轄領になる。木曾山は、大久保長安によって経営され、大量の材木が切り出され、名古屋、江戸、京大坂へ運搬される。
元和元年(1615)8月	木曾は尾張藩領となる。
寛永21年(1644)16月	江戸初期の乱伐の結果「尽き山」が目立ち始めたため土居・樽の伐採を禁止する山を指定する。
寛文4年(1664)6月	尾張藩の役員による木曾巡視が行われる。
寛文5年(1665)1月	住民の立入りと伐採が禁止された留山が指定される。木曾代官山村氏に一任してあった山林管理と、木曾川・飛騨川の運材支配を藩の直轄とし、上松に材木役所を設置する。
寛文9年(1669)頃	下り谷に白木改番所が設置される。
宝永5年(1708)	檜・樅・明檜・榎の四木が停止木となる。
享保9年(1724)4月	享保の検地が実施され、本年貢が廃止される。
安永7年(1778)6月	伊勢神宮遷宮用材の下見に、役人が湯船沢山、蘭山、妻籠山、与川山に入る。
寛政10年(1798)	伊勢神宮遷宮用材の下見に、役人が湯船沢山、蘭山、与川山、小川山に入る。
文政2年(1819)6月	湯船沢山と蘭山から遷宮用材の切り出しが始まる。
天保10年(1839)9月	湯船沢山と蘭山から遷宮用材の切り出しが始まる。

20年前に上松町の赤沢で実施した御袖始祭

